

Stage Up

2002年

5

月号

生涯学習情報誌
ステージ・アップ
通巻 No. 110



写真：「奏でる」(テントウムシ) 撮影：川口 道明

もくじ

- 2 特集 インタビュー
- 2 生涯学習ア・ラ・カルト
- 4 ぐるーぷBOX / いま地域で学校で
- 6 まち・ひと・多面体 / くらし百景 歌壇
- 7 イベントパーク
- 8

発行・(財)川崎市生涯学習振興事業団
〈ホームページ〉 <http://www.kpal.or.jp>

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1
TEL 044 (733) 5560(代) / FAX 044 (739) 0085
ステージ・アップ直通 TEL 044 (733) 5811 E-メール: stage-up@kpal.or.jp

特集

インタビュー

グループ「糸の詩」^{うた}代表

栗田 佐穂子さん

ふだん何気なく着ている服。でも、ケガをして腕が上げられなかったり、ひざが曲げられなかったりすると、服の脱ぎ着も大仕事。そんな不便さを取り除き、体の不自由な人が楽に着られ、心なごますおしゃれな衣服の研究・製作するのがボランティアグループ「糸の詩」です。グループの創設者で代表の栗田佐穂子さんは、服飾学校で教える先生。洋裁の知識と技術を生かし、車イスに座ったまま着用できる外出着、両脇にファスナーがついたズボンなど、既製品をリフォームして簡単にできる服やオリジナルデザインの服を、仲間と共に100余種類ほど考案。作品展覧会やファッションショー、講習会を開催し「着やすい衣服」の普及につとめています。

「たかが服、されど服です。服一つで、気持が変わり、表情も変化するんです。人が輝く姿を見るのが喜びです」と語る栗田さんから、「糸の詩」の活動について伺いました。



体の不自由な方のための

着やすくおしゃれなユニバーサル衣服を考案

出合い学び ともに喜びつむぐ

——小誌では1998年に「グループ紹介」欄で「糸の詩」を取り上げていますが、改めて活動の様子を聞かせてください。

栗田 「糸の詩」の活動は、高齢の方や体の不自由な方、療養中の方などが脱ぎ着しやすい服・使いやすい身の回り品の研究と製作が中心です。具体的にはメンバーがアイデアを出し合い、既製品に手を加えて試作品をつくったり、新規にデザイン製作して実際に使ってもらう活動です。病気から立ち上がるにはお医者さんの知識が必要ですし、介護している人の意見も必要です。ですから医療関係者や老人施設の方、障害者グループの方と交流し意見を聞いています。施設を介して高齢者にモニターになっていただいて、実際に着用する人の意見と介護する人の意見を聞くようにしています。

メンバーは20代から70代までの27人で、40代50代の

人が多いですね。基本的には月2回の集まりで「ボランティアする気持があれば、洋裁の技術がなくても大丈夫。気軽にどうぞ」というグル

ープです。活動資金は、いろんな団体へ助成申請してなんとか確保しています。

——「糸の詩」を創設して7年、発足のきっかけは息子さんの交通事故だったそうですね。

栗田 いろいろなことが結びついてグループが生まれたのですが、一つのきっかけは息子のケガです。リハビリに通院するようになった時、治療しやすいように息子のズボンの脇にファスナーをつけたのです。そうしたら、本人だけでなく周りの人からも「これはいいね」と喜ばれました。ちょっとリフォームすれば着やすくなるのに、このことをみなさん知らないのなら伝えなくちゃと、教えている学院の研究生や卒業生に声をかけて、ボランティアグループを作りました。

——活動する中で大変なことはなんですか。

栗田 モニターになっていただいた方に感想を伺うのですが、本音を聞き出すのが大変です。ボランティアでしている私たちに気がつかず、最初は「とてもよかったです」としかおっしゃらないんです。何度か顔を合わせて仲良くなると「実は…」と本当のことを言ってくださいます。「あれはよかったけれど、これはダメ」とはっきり言ってもらえるような

アイデアをまとめた本



人間関係を作ること、お互いに心を開いて考え合うことが大事だと思っています。

それに、障害や病名が同じでも、病状は人によってさまざまなので衣服の改良点も違う、ということもわかってきました。ある大学病院の理学療法士の方たちと交流して知り得たことを基に考案した服でも、AさんはOK、でもBさんは「ちょっと…」ということもありました。こんな経験から「服にいろんな選択肢を盛りこんでおいて、本人が使いやすいよう選べる」という物を考案しなければと思っています。病状も一定ではなく変わってくるので、その変化にも対応できるように考えなければなりませんね。

—ハンディキャップのある方のためのファッションショー「着やすく・おしゃれに・いきいきと」を、これまで3回行っています。昨年11月に多摩市民館で開催したショーでは、車イスの方がウェディングドレスで登場し注目を集めました。



改良ポイントを説明する栗田さん

栗田 結婚式をあげたいけれども、重度の障害があるとか、車イスを利用しているなどの理由から、式場が対応できない。そんな話をたくさん聞いていました。そこで「結婚したいと思っているカップルがいたらぜひどうぞ」と募集しました。ところが市内からの応募はゼロでした。結局、応募してくださったのは東京都江東区の方で、ともに障害があるカップルでした。舞台

の上で本当の結婚式を挙げたのですが、そのお二人の前向きな生き方に会場の多くの人たちが感動しました。3回目のショーが前の2回と違う点は、障害のある方が自分から「モデルになりたい」と応募してくださったことです。「自分から志願」という方が多かったのがうれしかったです。前回ショーに出た方がとてもステキになり、生き方が前向きになる。そうすると周りで渋い顔をしていた人も「出てみると、おもしろそうだ」というふうに変ってきたのでしょうか。

—ショーでは、ウェディングドレスからカクテルドレスに短時間で早替わりの場面も…。

栗田 どうしてウェディングドレスか、というと、ドレスが最も着にくいものの一つだからです。Tシャツとパンツという着やすいものの対極にあるドレスを、瞬時に着替えられるならば、どんな洋服でもすぐに着替えられる、という事がわかってもらえるし、ショーという形で行うことによって、一度に多くの人に伝えることができると思ったのです。

—このショーにはどのくらいの方が関わったのですか。



多くの感動を呼んだ昨年十一月のショーのフィナーレ中川カズさん撮影

栗田 5歳から83歳までの老若男女約50人がモデルとして、また、ヘアメイク、音響、映像、司会、会場案内など、総勢180人の方がボランティアとしてご協力くださいました。モデルになった人たちは「とてもうれしい」と全身で表現し、本当に輝いていました。ショーを通して学んだことは「障害があるからいろんなことができない、と諦めなくていい」ということです。誰でも初めて何かに挑戦する時は、ちょっとおっかなびっくりですよ。みんな同じなんです。ショーを見に来ていた多くの方がそう受けとめてくださったようです。

それに、ボランティアというのは、体の不自由な人を元気な人がフォローすることではなくて、互いが持っていないものを補い合って学び合うことによって、幾重にも世界が広がることだと実感させられました。回を重ねるたびに、輪が大きくなり、関わってくださったみなさんから「参加してよかった」と言われたことが大きな喜びです。

—今後の抱負をお聞かせください。

栗田 着用する人にとって快適で、周りの人(介護する人)にとっても扱いやすい、そして見た目は普通の服となんら変わらない、それが私たちのめざす服です。障害があっても目的にあわせて服を選び、社会参加することで生き生きする。服を通して少しでもそのお手伝いのできたらいいですね。

大きな目標は、企業に向けて発信することで着やすい服が普及して、いろんな選択が容易になる世の中にしよう、ということです。さまざまなドアをノックしながら、私たちなりに働きかけて行きたいと思っています。

栗田 佐穂子 さん (くりた・さほこ)

登戸ドレスメーカー学院副院長。1995年、高齢者・障害者・療養中の人のための着やすい衣服研究グループ「糸の詩」を創設。服飾・福祉の教鞭をとるかたわら、ファッションショーの開催、テレビ出演、講演・講習会と広く活動。病院や高齢者施設などを訪問し、衣服の相談やリフォームを受けている。著書に『簡単・便利な介護服』(ブティック社)『おしゃれな介護服』(同)がある。

●まなぶ●

パソコンセミナー 受講者募集

- ◆ステップアップコース◆ Windowsの基本操作からWORD(ワープロソフト)・EXCEL(表計算ソフト)の基礎、インターネットの操作と利用方法まで学習します。
- ◆WORD中級コース◆ Wordの機能を幅広く学習し、文章や図表の高度な作成技術を身に付けます。
- ◆EXCEL中級コース◆ EXCELの機能を幅広く学習します。複雑な表やデータベース、グラフなどを作成しながら、EXCELを活用するテクニックを身に付けます。
- ◆はじめてのホームページ作成講座◆ 実際にWORDを利用してホームページを作成し、基礎から公開の手順まで学びます。

★講座日程と会場 プラザ会場 新百合21会場

	開催日時	コース	講座No
5月	13(月)・14(火)	ステップアップ	5-A
	15(水)・16(木)	WORD中級	5-B
	18(土)・25(土)	EXCEL中級	5-C
	27(月)・28(火)	EXCEL中級	5-D
	29(水)・30(木)	ホームページ作成	5-E
6月	3(月)・4(火)	ステップアップ	6-A
	5(水)・6(木)	WORD中級	6-B
	8(土)・15(土)	WORD中級	6-C
	17(月)・18(火)	EXCEL中級	6-D
	19(水)・20(木)	ホームページ作成	6-E
7月	6(土)・13(土)	ホームページ作成	7-A
	8(月)・9(火)	ステップアップ	7-B
	10(水)・11(木)	WORD中級	7-C
	22(月)・23(火)	EXCEL中級	7-D
	24(水)・25(木)	WORD中級	7-E
8月	5(月)・6(火)	ステップアップ	8-A
	7(水)・8(木)	WORD中級	8-B
	19(月)・20(火)	EXCEL中級	8-C
	21(水)・22(木)	ホームページ作成	8-D
	24(土)・31(土)	EXCEL中級	8-E
9月	2(月)・3(火)	WORD中級	9-A
	9(月)・10(火)	ステップアップ	9-B
	11(水)・12(木)	WORD中級	9-C
	14(土)・21(土)	EXCEL中級	9-D
	24(火)・25(水)	EXCEL中級	9-E
	26(木)・27(金)	ホームページ作成	9-F

- ★講座時間…各講座とも9時半～16時半。
 - ★受講料…12000円(テキスト代含)。定員は各15人。
 - ★申し込み…はがき・Fax・電話で。締め切りは各講座開講日の2週間前。第2希望までの講座No、住所、氏名、☎、年齢、受講目的を明記。
〒211-0064 中原区今井南町514-1生涯学習プラザ内
学習事業室 パソコンセミナー係
- 問い合わせ 学習事業室 ☎044(733)6626/Fax(733)6697

生涯学習ア

●たのしむ●

エアロビクス ダンスエクササイズの効果

「エアロビクス」という言葉は酸素を使うという意味で、「エアロビクス」は酸素を積極的に取り入れながら行う全身運動(有酸素運動)のことです。水泳、ウォーキング、マラソン、サイクリング、そして、ダンス的要素を加えた「エアロビクスダンスエクササイズ」などがあり、次のような効果があります。

- ・全身持久力の向上(疲れにくくなる)
- ・皮下脂肪の燃焼・体脂肪の減少(シェイプアップ)
- ・ストレスの解消(リフレッシュ)
- ・生活習慣病の予防
- ・健康の保持増進

生涯学習プラザと市内のスポーツ施設5ヵ所では、はじめての方も気軽にエアロビクスダンスエクササイズが楽しめるよう教室などを開催しています。リズムに合わせて気持ちよく体を動かし、正しい姿勢を身に付けながら効果的な全身運動を行います。お腹まわり・腕・脚などを引き締めます。友達と一緒に参加してみませんか。

問い合わせ スポーツ事業室 ☎044(733)5572

川崎市子どもの権利に関する条例—その12

人権オンブズパーソン制度スタート!

子どもや男女平等に関する権利侵害について相談・救済をおこなう川崎市人権オンブズパーソン制度がスタートします。おとな・子ども、権利侵害を受けた本人・友達だれでも相談することができます。

★電話相談・面接相談時間

月・水・金曜日……………午後1時～午後7時まで
土曜日……………午前9時～午後3時まで
火・木曜日(予約相談日)…午前9時～午後3時まで
日曜・祝祭日・年末年始(12/29～1/3)は休み

★相談電話番号

子どもの電話相談……………(813) 3110
男女平等の電話相談………(813) 3111

★設置場所

川崎市男女共同参画センター(すくらむ21)内4階
川崎市高津区溝口2-20-1(武蔵溝口駅徒歩約10分)

★相談開始日 2002年5月1日(水)

相談業務スタートにあたり、5月1日(水)・2日(木)は特別相談日として、人権オンブズパーソンと専門調査員が全員で皆さんからの相談をお受けします。

5月1日(水)…午後1時～7時▽2日(木)午前9時～午後3時
*5/3～6日は日曜・祝日のため休み。7日(火)から平常相談。

問い合わせ 人権オンブズパーソン事務局 ☎044(813)3113

ラ・カルト

●はぐくむ●

学校プール開放「安全講習会」開催
あなたも“市民救命士”に！

市内の小・中学校、養護学校では夏休みの期間、校区内の児童・生徒を中心とした青少年団体を対象に、プールを開放します。

また、学校プールの開放に伴い、プール管理と事故防止、安全指導と救命救急法の習得を目的に、下記の日程で講習会を開催します。対象はプール開放指導員・監視員、利用団体の指導者、学校施設開放関係者、プールの安全に関心のある方などです。修了者には川崎市消防局から「市民救命士」の認定証が授与されます。

学校プールの利用方法や安全講習会の受講については、各学校（学校施設開放運営委員会）、または青少年活動事業室にお問い合わせください。

★「安全講習会」の日程と会場★

6月18日(火) 9時～15時半：新百合21ビルB2ホール

6月21日(金) 9時～15時半：高津市民館 大ホール

6月25日(火) 9時～15時半：教育文化会館 6・7会議室

問い合わせ 青少年活動事業室 ☎044(733)5893

●さがす●

ご利用ありがとうございます
学習情報「ふれあいネット」

下の表は昨年度1年間（4月1日～3月31日）の「ふれあいネット」の利用件数を集計したものです。

施設情報	112,202件
見学情報	7,096件
講座・催し物情報	9,656件
団体・グループ情報	5,472件
指導者・人材情報	3,058件
視聴覚教材情報	3,558件
電子掲示板	11,777件

「施設情報」は施設予約も含まれるため利用件数が最も多く、次に催し物や会員募集、健康診断の日程など身近な生活情報が入っている「電子掲示板」の利用が目立ちます。前年度との比較では「見学情報」「講座・催し物情報」の利用が増加しています。これからもお役に立つ情報を提供します。どうぞご利用ください。

問い合わせ 学習情報室 ☎044(233)6250

ハート & ハーモニー Vol.22

急死を防ぎ、突然死を救うには

突然死（Sudden Death）はスポーツ用語（サッカーのVゴール）にもあり、一般の人にもイメージが先行して口にされる言葉ですが、その分正確な定義を意識してもらえない用語の一つです。

1988年に厚生省が行った突然死の実態調査では、内因性の原因で発症後24時間以内に死亡した例が集められました。事故、自殺、他殺などの外因は除かれ、当然ながら脳血管障害や心筋梗塞が多くを占めました。もっと正確を期すのであれば、すでに血圧や自覚症状で注意をしていた人も除きますし、健康診査を行っていれば予測可能であった例は除くべきだと考えます。つまり、突然死は「予測をできなかった内因性の原因による急死」と定義できます。これ以外の急死は「予測または防止可能であった」と考えられるのです。

スポーツ活動中の内因性事故防止を考えると、急死と突然死の区別は対応が全く異なっているので重要です。ここで定義した突然死が事故全体で占める割合は大きくありません。その多くは詳細なメディカルチェックでも予測できない、たまたま起こった致死性の不整脈であると考えられています。問題のなかったはずの身体に偶然起きた、放置すれば死に至る事件なのです。心臓マッサージを含む救急救命処置がゴールデンピリオドと呼ばれる3分以内に開始されれば、後遺症なく救われます。もちろん救急救命処置が必要になる場面はたくさんあり、いつでも、どこでも、だれかが自信を持って手を出せる環境を社会的に整備すべきです。低い確率ではあっても、予測できない突然死は目の前で起こりうるのです。

急死例も、起こってしまえば救急対応は同じです。しかし突然死と違うのは偶然ではなく必然的である点です。メディカルチェックで状況を把握し、安全な運動の範囲を設定し、危険性を予測することによって、事故は大幅に防止できます。ここに知識と労力を投入しないで後始末である救急処置に頼るのは、まさに健康の無駄遣いと言えます。

これからのメディカルチェックは健康管理の一部です。自分自身の身体に大いに興味を持って手入れを行い、専門家の適切なアドバイスを取り入れながら、安全にスポーツを楽しめるライフスタイルをつくる時に、スポーツ医学の知識が役に立ちます。専門家には、主体的な健康管理が進められる支援のある環境を提供しようとする意識が求められます。

（健康教育担当 スポーツドクター 野田晴彦）

ぐるーぷBOX

自ら健康増進に努める

「自強術 新百合ヶ丘」

「用意はじめ」「イチ、ニ、サン…」と独特の息づかいで体操しているのは「自強術 新百合ヶ丘」(前田和彦代表、会員24人)です。昭和62年、麻生市民館の成人学校、自強術講座の終了者で発足したこの会は「日々、心豊かな生活を」をモットーに、自強術普及会横浜支部の安岡玲子さんの指導で健康づくりに励んでいます。

自強術は、日本最初の健康体操で大正初期の創案。独特の呼吸法で心身をリラックスさせ、かけ声と共に全身を動かす31動作の体操と手技療法で、健康増進を図ることが目的です。同会のメンバーは20代から70代までとさまざま。10年近く続けている方もいるそうです。

金曜の夜、麻生スポーツセンターの武道室を訪ねると、顔擦りと足揉みの軽い運動の最中。その後「31動」の体操に入っていました。まず下腹をかかえて肩の上げ下げ。この動作を20回繰り返します。次に肋骨に手をあて肩の上下運動を20回、という具合に進んでいきます。後半では、両足を左右に思いきり開く体操。「無理しないで、自分の体調に合わせてみましょう」と指導の安岡さ

んが声をかけます。全ての動作は、肺、心臓、高血圧、腰痛、肩凝りなどいろいろな症状に効果があるそうです。

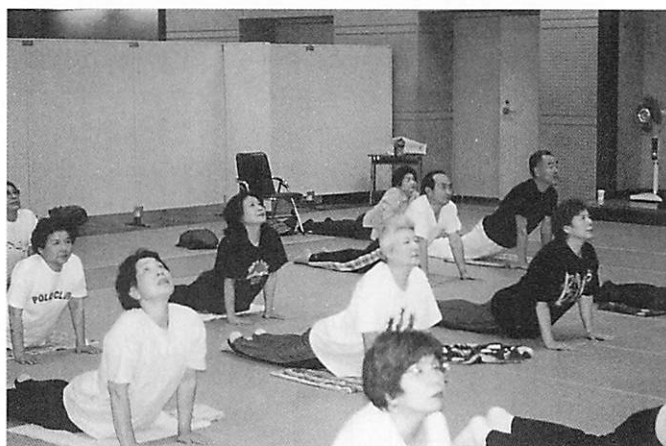
「31動」の後は、休憩をはさんで手技療法です。緊張した表情からすっきりした顔色になり、2人1組で手を取り合い笑顔で関節や筋の調整訓練をしていました。

会員の声「競うことなく楽しくできるのがいいですね。血行がよくなり疲れがとれます」。

◆活動日：金曜日(月4回) 18時半～20時

◆場 所：麻生スポーツセンター・麻生市民館

◆連絡先：☎(954)6893の前田和彦さん



いま地域で学校で

2年間の養蚕体験を発表

栗木台小学校の朗読劇「蚕からの贈りもの」

かつて養蚕が盛んだった麻生区黒川周辺。近くの栗木台小学校(渡邊慶子校長、児童数468人)の6年2組(担任中島克己教諭)の児童42人は「総合的な学習の時間」の中で、2年間にわたり蚕を飼育しました。子どもたちは飼育にとどまらず、養蚕の歴史や製糸の仕方を調べたり、桑の草木染めや桑の実ジャムづくりに取り組んだり、興味関心がさまざまな方面に拡大。卒業を控えた3



月初旬、養蚕体験の集大成として、学んだ成果や感動を「朗読劇」で発表しました。

会場の体育館には、2年間の学習でお世話になった群馬県の碓氷製糸農業協同組合長の茂木雅雄さん、横浜のシルクセンター博物館部長の小泉勝夫さん、地元の熊澤英雄さんはじめ、地域の人や保護者など300人が集い、子どもたちの発表を見守りました。

地域に伝わる詠歌「蚕影山和讃」から始まった劇は、蚕のえさの桑を探したことや、愛情をこめて育てた蚕がさなぎになった時「まぶし」といわれる道具を探しまわったことなど、その時々を思いをつづった文や詩の朗読をもとに進められました。クライマックスは、繭を蛾にするか、糸にするかの葛藤の場面。真剣な話し合いの末、蚕の命を預かり冷凍庫に入れることに。繭の中の蚕に思いを寄せて演じる子どもたちに、会場も水を打ったように静まりました。やがて蚕の命の贈りもの、真珠のように輝く絹糸が碓氷製糸農協から送られ、「蚕がくれた宝物」のメッセージで、幕となりました。

中島教諭は「互いに認め合いながら、子どもたちは主体的に行動し、自分たちの活動を展開したことに頼もしさとうれしさを感じます」と語っていました。

まち・ひと・多面体

ともに歌い心つなごう

「お散歩コンサート」

「♪今日はよい日だみんな元気に…♪」。ある土曜の昼下がり、川崎区の教育文化会館の一室から明るい歌声が聞こえてきます。この集いは「お散歩コンサート」(同実行委員会主催、吉浜富喜会長)。お散歩に出かけるように気軽に参加し、なじみの曲を「一緒に歌い楽しむ」と奇数月の土曜日に、入場無料で行われています。

コンサートの誕生は8年前。川崎区PTA協議会の役員経験者らが「地域の中で、子どもと大人が交流し憩える場」になることを願って始められました。

伺ったこの日は40回目のコンサート。「一緒に歌いましょう」のコーナーでは、300人の参加者が声楽家の古渡智江さんのリードで「おぼろ月夜」「春よ来い」など季節にちなんだ唱歌や童謡を10曲ほど歌いました。古渡さんは初回から歌唱指導していて「先生と一緒にマイクで歌うのが楽しみ」という常連さんもいるほどです。

「特別出演」のコーナーは、地域で活動しているさまざまな団体の発表の場。この日は、パラパラダンスの「黒ちゃんクラブ」、小学生によるハンドベル演奏の「タ



ンポボクラブ」、シニアの混声合唱団「とどろき音楽サークル」の3団体が出演。いずれも大きな拍手を浴びていました。

ボランティアで活動を支える実行委員は、毎回アンケートをとって参加者の要望を聞き、プログラムに反映するよう努めています。また、意見や感想をプリントして配布し常に「双方向の場づくり」に心をかけています。

次のコンサートのお知らせは、小誌8ページ「イベントパーク」欄をご覧ください。特別出演する団体と運営スタッフも随時募集しています。問い合わせは☎(233) 6361、教育文化会館内の実行委員会事務局まで。

くらし百景
歌壇

萌黄短歌会

木暗を曲がりて登る段のはて観音と人と隠りて住める(燈寺)

明けゆける師走の朝にメールあり「助かるよね」とたつたそれだけ

あめつちに護られ四十年ひたすらに共に真面目に歩みきた路

ピラカンサの熟れて気怠く垂るる実はひよどり夫婦も食べ切れまいぞ

埋をなす落葉にひそむ虫なりし鴉くわえて共に空とぶ

サッカーとコンピューターと屁理屈と湯たんぼが好きが調和してる子

友住みて朝に夕べに詠みて来し竹群伐らるる荒き音たてて

大振りの白菜洗へば葉の間よりいろは紅葉のいつこより来し

去年今年めぐる月に暈は見ゆかなしきものとのみ生きゆかむ

※市民講座「短歌の魅力に触れる」から生まれた萌黄短歌会は早や六年目。歌人寺尾登志子先生(りとむ所屬)の御指導のもと、現在は「和泉式部集」を学びつつ、会員の作品による歌会を行っています。隔月の例会を一同楽しみにして集まっています。例会は奇数月の第三土曜日午後二時から多摩市民館です。よろしかったら一緒に学びませんか。

代表 鯉淵・山藤

- 杉下 幹雄
- 白井 正子
- 綾部 礼子
- 山藤まさ子
- 黄川田宮子
- 鯉淵和可子
- 滝沢 敬子
- 倉林よし子
- 寺尾登志子

情報コーナー イベントパーク 講座・コンサート他

●初期浮世絵と鈴木春信展

5月5日(祝)～25日(土)。場所は砂子の里資料館。鈴木春信の浮世絵を中心に展示。無料。10時開館。日曜・祝日休館。☎(222)0310。

●「中村正義と三上誠」展

5月31日(金)まで、中村正義の美術館。三上誠の作品11点と中村正義の作品13点を展示。一般500円、小中生200円。11時開館。開館日は金曜～日曜と祝日。☎(953)4936。

●ミニ画廊スナック琴①写真展②パステル画展

①は5月6日(月)～18日(土)。帝国通信グループの風景作品。②は5月20日(月)～6月1日(土)。松本孝司とパステル画会グループの作品。展示無料。☎(544)0507。

●ランチタイムコンサート～ジャズ

5月15日(水)12時15分開演、市役所第3庁舎ロビー。出演は中村誠一(サクソ)、金子雄太(ハモンドオルガン)、久米雅之(ドラム)。曲目は「ドナウ河のさざ波」「ザ・キャット」他。無料。☎(222)8821の川崎市文化財団。

●お散歩コンサート

5月25日(土)14時開演、川崎市教育文化会館大会議室。声楽家の指導で童謡や唱歌などを参加者全員で歌う。無料。☎(233)6361の教育文化会館内同実行委員会。

●演劇「彦一どんの知恵くらべ」

5月25日(土)11時開演。場所は岡上小学校体育館。先着200人。無料。☎(988)0268の岡上分館。

●ひとみ座寄席

6月1日(土)15時と19時。中原区井田のひとみ座第一スタジオ。出演は桂文生、大空かんだ他。前売り1500円、小～高校生900円。☎(777)2225。

●渡辺香津美のギター悠々コンサート

7月5日(金)18時半開演、川崎能楽堂。出演は渡辺香津美(ギター)と中川昌三(フルート)。曲目はメンデルスゾーン「歌の翼に」、チック・コリア「スペイン」他。入場料4000円。☎(222)8821の川崎市文化財団。

●第12回スポーツ振興チャリティダンスパーティー

5月11日(土)17時半～20時。場所は中小企業・婦人会館。会費2500円(軽飲食物付き)。主催は川崎市スポーツ指導者協議会実行委員会。☎03(3702)0650の斉藤さん。

●川崎市民プラザダンスパーティー

6月8日(土)18時半から。出演は、東京キューバンボーイズJr。入場料2500円。先着150人。チケットはプラザフロントで発売中。☎(888)3131。

●社交ダンス特別講習会

6月8日(土)13時から、川崎市民プラザ。タンゴとサンバを講習。初・中級者対象。受講料2500円。定員男女各25人。☎受講料を添えてプラザフロントへ。☎(888)3131。

●クリエイイト科学館一般公開

5月12日(日)13時半～16時半。場所は麻生区黒川の発見工

房クリエイイト。科学遊具の公開▽人工夕焼けや虹▽プラズマ原理の説明他。工作あり。対象は小学4年～成人。参加費は子ども1000円、大人2000円。☎☎・Fax(981)1892。

●市民天体観望会

5月18日(土)19時～20時半。場所は川崎授産学園。月、木星、二重星、春の星座を観望。曇天・雨天の時は室内で天文集会。無料。小学生以下は大人同伴。当日直接。☎☎(954)5011。

●川崎市民プラザ子ども映画まつり

5月5日(祝)「それいけアンパンマン」他。5月6日(月)「エルマーの大冒険」。上映時間は両日とも10時と14時。無料。先着500人。☎☎(888)3131。

●川崎市民プラザ映画劇場

5月25日(土)。西田敏行主演「釣りバカ日誌イレブン」。上映時間は14時と18時。無料。先着各500人。☎☎(888)3131。

●国際語エスペラント無料入門講習会

5月22日～7月10日の水曜19時半、全8回。場所は国際交流センター。☎☎(533)1974の北川さん。

●川崎歴史講座

5月23日～6月20日の木曜14時から、全5回。場所はサンライフ川崎。講師は郷土史研究家の吉野智佐雄氏と米窪昌照氏。先着48人。受講料3150円。☎5月15日(水)9時から電話で。☎(344)1777。

●①手話入門講習会②点字入門講習会

①は5月21日～6月25日の毎火曜18時半から、全6回。定員30人。無料。②は5月24日～6月21日の毎金曜10時から5回。定員20人。教材費1500円。場所はいずれも北部身体障害者福祉会館。対象は①②とも市内在住・在勤・在学の方。☎5月7日(火)までに往復はがきに住所、氏名(ふりがな)、☎、生年月日、希望講習会名を記し、〒213-0001高津区溝口1-18-16の同館。☎(811)6631。

●玉川大学公開講座

5月開講のガーデニング▽写真▽布を創る▽ジュエリーデザイン他の受講生を募集。詳細は☎042(739)8895の同大継続学習センターへ。

●募集「車いすでも着やすいウェディングドレス」で記念撮影

6月16日(日)10時～15時に多摩市民館ギャラリーで行う「ユニバーサルファッション作品展&ワークショップ」の中で、「車いすでも着やすいウェディングドレス」を着て写真を撮りませんか。対象は障害のあるニューカップルまたは式を挙げてないカップル先着5組。参加費無料(ただし写真焼き増し分は実費)。詳細は☎(911)2221(午前中)、Fax(933)0775の登戸ドレスメーカー学院内グループ「糸の詩」事務局まで。

<編集室から>表紙写真が変わりました。今号から一年間、昆虫写真家の川口道明さんの作品をお送りします。あわせて川口さんの「ひとこと」も毎回掲載します。お楽しみに。

表紙写真 撮影者からひとこと

「花と虫の旋律」それは私の“虫の写真”の原点である。春、テントウムシはこれから繰り広げられる一年間の虫たちのドラマの舞台に最初に登場し、花の琴線に触れ開幕を奏でる。 日本写真作家協会会員 川口 道明